

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>事業所独自に、その方の生活のここちよさが、生きるここちよさになるという理念を作っている。</p>	○	ADLが低下したり、認知症が進行していかれることに、静かに対応できるよう努力している。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>常に話し合いの場等を作っている。</p>	○	ミーティングやケースディスカッションにより、より深く取り組むようにしている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p> <p>運営推進会議を通して伝えるようにしている。</p>	○	認知症を理解することから、取り組んでいる。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>農村地域ということもあり、採れたての野菜をよく頂いている。</p>	○	もっとたくさんの人と関わりが出来るように、挨拶から始めている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域の秋祭りへの参加や、盆踊りに参加し、交流させて頂いている。</p>	○	5周年を祝う会では、地域の方に参加を呼びかけた。このような交流を今後も続けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>認知症を取り巻く環境の中で、相談しやすいような話し合いをしている。</p>	○	<p>地域の方で困っていらっしゃる方へのサービスの紹介ができるように、職員間で学び合うようにしている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>振り返りの評価として理解し、より良い方向になるように努力している。</p>	○	<p>少しずつであるが、改善点には努力していく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>管理者だけではなく職員が毎回参加し、情報が共有できるようにしている。</p>	○	<p>ミーティングで、どのように行うことがこれからの質の向上につながるのか、話し合っている。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>市町村の担当職員がGHに対して理解があり、共に学ぶ姿勢として、たずさわって下さっている。</p>	○	<p>昨年より始まった運営推進会議も、中身が少しずつではあるが充実してきたように思われるが、これからもより深めるようにしたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>家族会や運営推進会議の時に説明している。</p>	○	<p>職員が学んで、深く理解できるようにしたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>職員間で虐待につながらないよう、常に話し合っている。</p>	○	<p>自分達が疲れた時の言葉遣いに、お互いが気遣うようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者の方には、体験入居をして頂き、納得されて契約するようにしている。</p>	○	<p>もし自分だったらと、考えて説明したい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会はじめ、運営推進会議において、活発な意見を頂いている。</p>	○	<p>小さな言葉にも傾聴する。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>運営推進会議においては、パワーポイントで近況の報告。毎月行っている個別の面談で、金銭の取り扱いについて確認している。</p>	○	<p>どのような生活をされているのかを伝えていく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱を設置している。小さなことでも言われるように、常々伝えている。言われたことは、職員間で迅速に対応している。</p>	○	<p>常に聞くという視点でいく。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>一方的な指示とならないよう、話し合いの場を作るようにしている。</p>	○	<p>もっと活発な意見が出るよう取り組みたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その時々により、勤務時間の調整を行うようにしている。</p>	○	<p>利用者様の状況に応じて対応していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職以外に、異動は行っていない。</p>	<p>○</p>	<p>職員の報酬に反映できるよう、国等に働きかけたい。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>本人の意欲を重視している。</p>	<p>○</p>	<p>職員は、持っている能力を最大限に生かして、成長して欲しいと考えている。</p>
<p>20</p> <p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権を考えながら、利用者と向き合う努力をしている。</p>	<p>○</p>	<p>一人の人としてケアできるよう、職員相互間で見習っている。</p>
<p>21</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>受講できるものには、参加できるようにしている。</p>	<p>○</p>	<p>学びに終わりはないので、常に研鑽できるように考える。</p>
<p>22</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に入会しており、勉強会に参加している。他GHとの人事交流により、質の向上を図っている。</p>	<p>○</p>	<p>これからも、一緒に学び合える仲間を作っていきたい。</p>
<p>23</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月に一度、職員全員で食事会をしている。</p>	<p>○</p>	<p>なんでも遠慮なく言える場が、もっと作れるようにしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> <p>職員個々の努力や実績を、常に認めている。</p>	○	研修会へもっと参加できるようにする。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> <p>本人の意向は必ず聞き、否定しないようにしている。</p>	○	安心へとつながるような受け止め方に取り組む。
26	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> <p>様々な家族の状況の中で、それぞれを深読みしながら受け止める努力をしている。</p>	○	何が辛いかを聴くようにしている。
27	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> <p>認知症対応のデイサービス等、必要な支援を常に考えている。</p>	○	少しでも安心して過ごせるようなサービスの利用を伝えている。
28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> <p>GHは、体験入居をして頂くことにより、御本人、他の入居者、職員が納得されてから開始する。</p>	○	御本人家族が安心できる対応をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> <p>利用者の小さな言葉に耳を傾け、本人のペースを大切にしている。</p>	○	時には、利用者へ癒されていることに気づいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居の際、家族と共にということを伝えている。	○	家族が一番だと、常に伝えている。
31 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症になられたことを悪と思われないような、家族への促し方への配慮。	○	無理強いせずに見守っていきたい。
32 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家に戻ったり、馴染みの所でパーマをかけたりと、して頂いている。	○	なるべく長く馴染みの関係が続くよう、配慮したい。
33 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方同士の相性を考えてケアしている。	○	関係が悪くならないように関わっていく。
34 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談事がある時には、常に話せる対応になっている。	○	ここに来ればとっていただけるような姿勢。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
35 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個性と受け止めるようにし、本人本位の希望に添うようにしている。	○	よく観察していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴や馴染みの暮らし方を大切にしている。</p>	<p>○</p> <p>どのことが安心につながるのか、以前の暮らしの中で見つけていきたい。</p>
37	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>何ができて何ができないのかの、日々の変化に気をつけている。</p>	<p>○</p> <p>進行していく認知症や低下していく身体機能へ、適確に対応できるようにする。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意向、家族の希望を大切に、職員間で話し合い、計画を作成している。</p>	<p>○</p> <p>お世話になっているからとの家族の意見を多く聞くが、もつとお互いの意見が出てくることを期待する。</p>
39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎にプランを作るが、小さな変化にはショートケアプランで対応している。</p>	<p>○</p> <p>常に実行できるようにしたい。</p>
40	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を記録し、判断することによりケアプランの見直しに活かしている。</p>	<p>○</p> <p>書くことで、情報の共有ができています。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>できる限り要望に応じるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>本人や家族にとって、より安心して過ごせるための支援を援助できるようにしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
42	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>民生委員、ボランティア、警察等の温かい支援が普通にあり、日々の生活が豊かになっている。</p>	<p>○</p> <p>受け入れが十分な民生委員さんと共に、地域にとけこむ努力をしていく。</p>
43	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>GHなので、他の在宅サービスは受けることができないが、地域のケアマネとは常に交流がある。</p>	<p>○</p> <p>地域のケアマネとGHとのネットワーク作りができればと考える。</p>
44	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターとの協働は未だです。</p>	<p>○</p> <p>地域包括支援センターより市町村の職員と協働している。</p>
45	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同じ法人の理事長が医師であり、利用者、御家族から信頼を得ている。</p>	<p>○</p> <p>家族と本人が望む医療が受けられるよう、医師と連携をとる。</p>
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>スーパーバイザーに相談できる体制がある。</p>	<p>○</p> <p>認知症に関する知識を現場から学び、相談しながら、適切な対応ができるようにしていく。</p>
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>常に健康管理や相談への支援がある。</p>	<p>○</p> <p>GHへ足を運んでくださることもあり、今後も協働していきたい。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に、最短に退院できるよう、相談している。	○	どうすれば早くGHに戻れるのかを、職員間の学びの場で検討したい。
49 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化になられる前に話し合いをするようにしている。	○	どうすることが御本人にとって最良なのかを考えていきたい。
50 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	より安楽に安心して過ごしていただく為に、変化に医療との連携を続けている。	○	家族との話し合いの中で、できること、できないことを伝え、納得された中で支援をしていきたい。
51 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージが御本人にとって辛いものか、家族会等で伝えるようにしている。	○	そのような場面にならざるを得ない時は、十分な情報交換ができるように、記録に残したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
52 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間でおかしいと思う言葉は、互いに注意している。	○	人権教育を職場内ミーティングでも行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ゆっくり関わることと、本人からの言葉を待っている。	○	どんなに認知症が重度化しても、本人の希望が出せるようなケアを目指したい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	より進行していかれた入居者のペースを大切にしている。	○	もっともっと、ゆっくり関わっていくことが課題である。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なるべく地域のいきつけの美容室に行っている。	○	身体的に店に行くことが無理になっても、その店の方に来ていただけるようにしたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、配膳下膳、片付けの参加がある。	○	有用感の持てるような働きかけを考えている。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お好きな物は、お好きな時に楽しめるよう支援している。	○	笑顔につながる嗜好への支援は続けたい。
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員が排泄のパターンを理解していて、不快な思いをされないよう支援している。	○	トイレでの排泄が、いつまでも継続できるようなケアをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から風呂には湯をはり、いつでも入れるようにしている。	○	入浴を楽しめるような配慮をしていきたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の安心できる居場所にて、休息したり眠れるような環境となっている。	○	どこでも安心につながるような居場所を確保できるようにしたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの役割や楽しみごとができるよう、日々考えて支援している。	○	役割があるということは、有用感につながると思うので、大切にしていきたい。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	神社、仏閣でのお賽銭や、買い物の際の支払いをしていただく。	○	自分から支払うという行為を大切にしていきたい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なるべく外出の機会を考えて、戸外へと出ている。	○	気候や体調を考えて、外の空気に触れる機会を増やしたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の支援が多く、共に外出されたりしている。	○	家族の方との交流が、継続できるような機会を作りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は耳が遠くなられたこと、手紙は読めるが書けないようになられているので、出してはいない。	○	絵手紙などを本人宛に出すことを考えたい。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	定期的に来られている家族や、突然訪問される方がゆっくりできるようにしている。	○	おもてなしとは、その空気だと考えているので、その視点で物事を考えたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に考え、行動している。	○	認知症ケアでは必要なことなので、常に考えて行動していきたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初より、理解できている。	○	これから先も、取り組むことである。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	チームプレイを通して、報連相が徹底している。	○	職員間のあるべき姿であり、安全に暮らすということを再認識したい。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室の壁の飾りにおいても、その方にあった高さ等に工夫している。	○	その方の安心な暮らしはどうか考えて、管理していくべきである。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p> <p>一人ひとりのリスクを考え、どうすることがよいのか話し合っている。</p>	○	職員間でいつも話し合い、事故につながらないように取り組んでいきたい。
72	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> <p>勉強中である。</p>	○	応急手当普及員である職員が、訓練を計画中である。また、常に学んでいきたいと考える。
73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> <p>町内会の人々をお願いしている。</p>	○	家族連絡網を作っており、さらなる協力者を確保していけるようにしたい。
74	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p> <p>その方なりの自由な生活とのギャップを伝えるようにしている。</p>	○	もっとリスクが高くなる場合に、家族とのより良い方法を考えたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
75	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>体調の変化時は、管理者に連絡し、必要な場合は医師から指示していただくようにしている。</p>	○	早期発見に努めて、安心・安楽な生活ができるように勤めたい。
76	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>服薬の支援と、誤薬がないように確認している。</p>	○	薬の目的と副作用については、常に学ぶこととする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけに頼ることなく、寒天を使ったおやつに、ヨーグルト等で対応している。	○	便秘にならないように、常に工夫したい。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがいや歯磨きで対応している。	○	残渣物がいつまでも口の中になくするように、気をつけたい。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な人には、チェック表を作っている。	○	食事だけではバランスを保てない時は、栄養補給の食品を使っていただく。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防や対応は、適宣行っている。	○	予防できるものは予防で対応できるよう努力したい。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、フキン・まな板のハイター消毒、新鮮な食材で料理をしている。	○	衛生面には、常に注意を払っていく必要がある。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を植え、ほっとする空間を作るようにしている。	○	誰でも気軽に来て頂けるように、温かい感じにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るすぎる光は、少し柔らかく、季節の花を飾るようにしている。	○	生活の匂いが漂うような家にしたい。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合わない利用者の方と同じテーブルにしない。	○	安心できる空気が流れるようにしたい。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを居室に持ってきて頂いている。	○	お好きな物、大切にされているものがあれば、さらに置く。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	汚物処理はこまめにし、嫌な匂いがしないようにしている。	○	失禁には迅速に対応できるように、これからも行っていきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所への手すりの設置をしている。	○	なるべく自分の力でと考えて、その時々環境作りが必要になってくると思う。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	なるべく自分の持ち物を居室に置き、トイレは便所と表示、持ち物には名前を書いている。	○	その時の状況で、混乱されない工夫が必要になってくると思う。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テーブルや椅子を置いて、四季折々の花が楽しめるようにしている。	○	外に出てみたいと思わせる気持ちになるような空間作りをしたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

のADLの低下や認知症の進行と向き合っている。否定することなく、全職員が入居の方の意に添えるケアをと、自己研鑽を重ね努力している。自分が入居したいと思えるグル